

資料一5

志津見ダム水源地域ビジョンの
理念・目標・基本方針について

平成23年12月12日

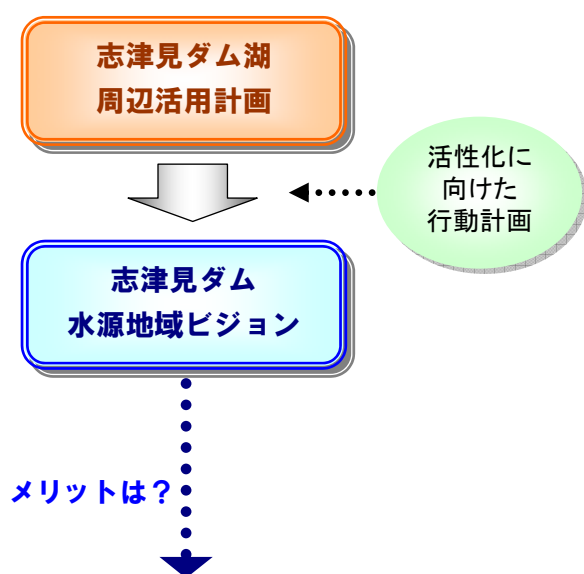
志津見ダム水源地域ビジョン策定委員会事務局

1. 志津見ダムにおける水源地域ビジョン

◆ビジョン策定の背景

志津見ダム水源地域ビジョンは、「志津見ダム湖周辺活用計画」策定から10年が経ち、志津見ダムも管理開始に至ったことを節目に、「志津見ダム湖周辺活用計画」に活性化に向けた行動計画を付加することで、今後の方向性をより具体化し地域の更なる発展に寄与するために策定するものです。

◆位置づけ



◆実施内容

○地域活性化方策の検討

地域の活性化に向けた具体的な取り組み内容について検討します。

○ビジョン推進体制の検討

検討した活性化方策を推進するための組織や推進方法、スケジュール等について検討します。

○役割分担、連携・協力の方法の検討

関係行政機関等の支援方法や、周辺施設の維持管理における役割分担等について検討します。

水源地域ビジョンを策定することにより、

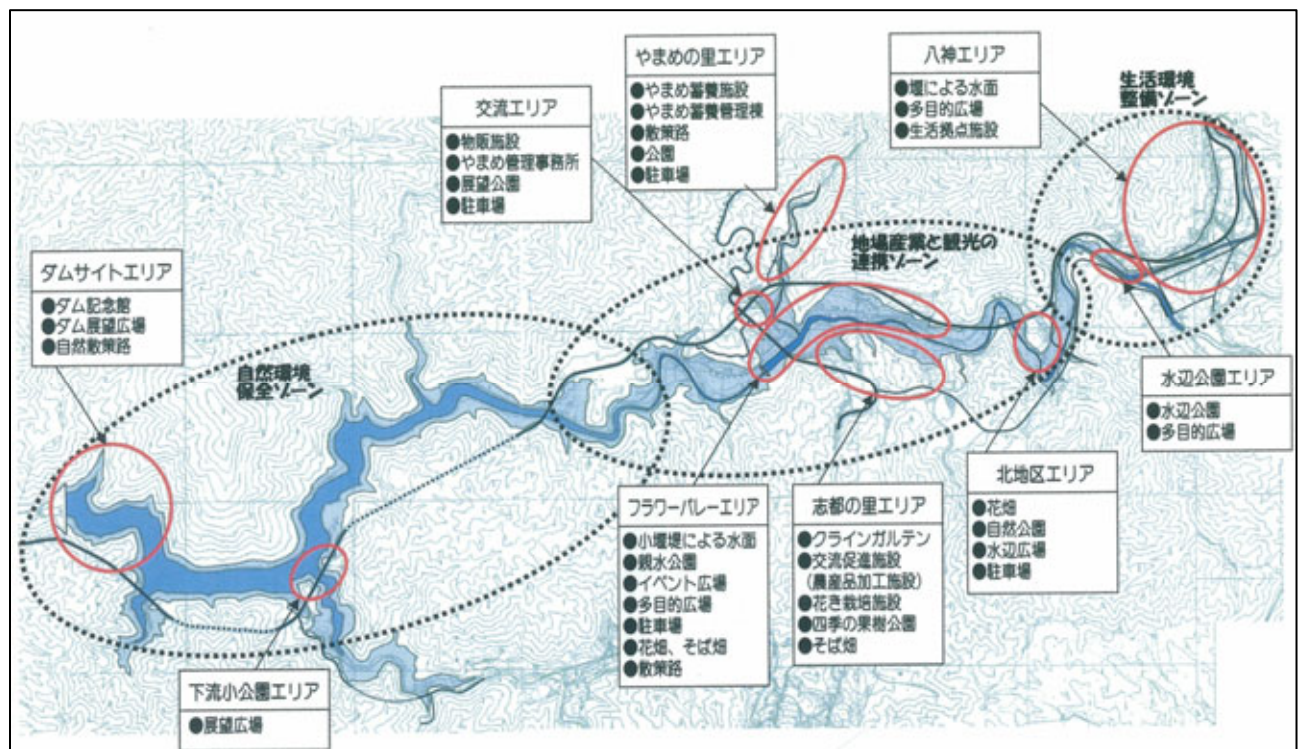
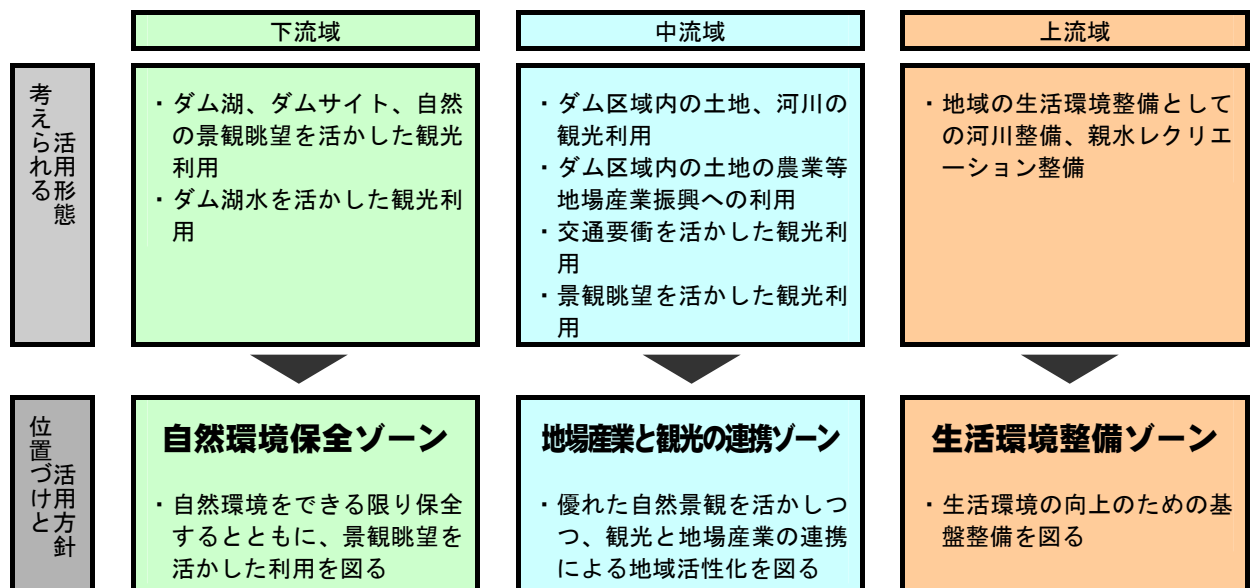
- ダム湖周辺施設の維持管理について、役割分担が明確になります
- 地域住民・関係機関等において、今後の方向性等についての合意が形成され、一体となった取り組みが可能となります
- 地域での活動の位置づけ（官民協働で策定した計画）が明確になり、助成事業等の採択における有効な裏付けとなります

2. 志津見ダム湖周辺活用計画（平成 14 年 3 月）

◆ 基本理念

- 将来の地域の状況に過度の期待をかけない、背伸びをしない計画
- 地域の資源を活かした地域住民が幸せになれる視点での観光と活性化

◆ ゾーンごとの活用形態、整備の位置づけと活用方針（土地利用基本計画）



3. 地域住民の意向等

◆地域における現状と課題等（平成 21 年度 ヒアリング調査）

○貯水池周辺整備施設の現状について

- ・施設等の整備については、当初計画内容から若干変更されている部分もあるが、概ね整備が完了しつつある。
- ・施設の維持管理については、概ね維持管理主体が明らかになっている。
（但し、一部エリアでは、今後調整が必要）
- ・周辺整備施設の中心的な役割を担う「志都の里エリア」「フラワーバレーエリア」「交流エリア」「やまめの里エリア」は、基本的に（有）志都の里が管理・運営を行っている。

○現状における課題

- ・施設の維持・管理が将来にわたって地域で行えるのかなどの不安がある。
- ・様々な周辺整備の維持管理を行っている（有）志都の里では、「クライנגアルテン」以外での施設での経営状態が厳しい。
また、人材も不十分であり、現在の活動を行うだけで手一杯の状況である。
- ・集客のための企画や取り組みが不足している。
- ・漁協等の他の組織との連携が不十分である。

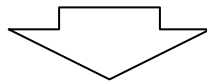
○今後の方向性

- ・基本的には、「志津見ダム湖周辺活用計画」で計画した内容や方向性を今後とも維持していきたい。

◆地域の将来像（平成 21 年度 水源地域対策アドバイザーとのワークショップ）

〈地域の将来像についてのキーワード〉

- | | | |
|----------|-----------|---------|
| ○笑顔で暮らせる | ○自立・自給 | ○助け合い |
| ○伝統を守る | ○みんなの生きがい | ○つながりの要 |
| ○美しい景観 | ○リサイクル | |



〈キーワードをもとにしたとりまとめ結果〉

私たちは、志津見の美しい自然と文化を生かし、つながり合う心を持って自立することで、笑顔で暮らせる地域にします。

4. 志津見ダム水源地域ビジョンの理念・目標・基本方針（案）

